

黄道12星座

皆さんは自分の星占いの星座が何座かということを知っていますか？ 星占いの星座は下にあるような星座で、生まれた日によって星座が決まります。ではこの星占いの星座とは何なのでしょう。

これは太陽の通り道にある星座で、黄道12星座と呼ばれています。太陽の通り道とは聞きなれない言葉ですね。昼は星は見えませんが、これは星が光っていないからではなく、太陽の光があまりに強いので見えないのです。もし、太陽の光が弱いと、太陽のまわりにも星が見え、太陽がどの星座にいるかがわかります（例えば皆既日食の時）。太陽は毎日同じ星座にいるわけではありません。ゆっくりと1日に約1度づつ西から東へ動いています。そして1年かけて空を一周するのです。これは地球が太陽のまわりを1年かけてまわっているからです。この太陽の通り道を黄道と呼び、黄道12星座とはこの太陽の通り道にあたる星座のことです。

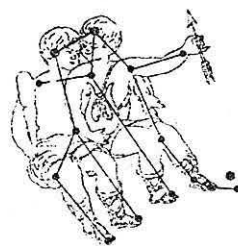
この黄道付近には、太陽の他に月や火星、木星、土星などの惑星がいることがあります。これらの惑星は1等星以上の明るさがあり、真夜中でも見えますから、惑星がその星座にあると星座の形が変わって見えることがあります。



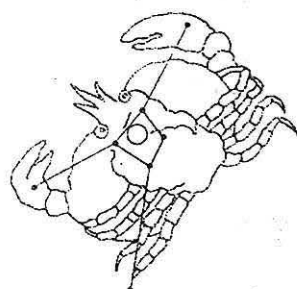
おひつじ座
(3/21~4/20)



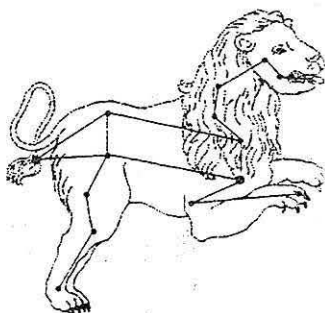
おうし座
(4/21~5/21)



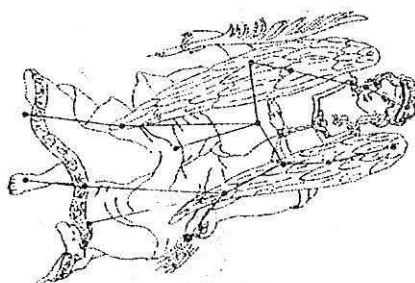
ふたご座
(5/22~6/21)



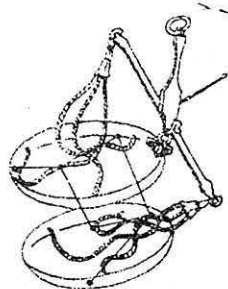
かに座
(6/22~7/22)



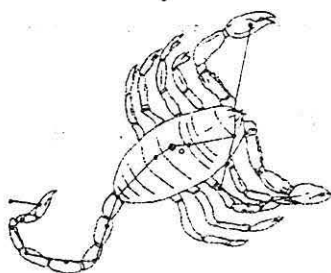
しし座
(7/23~8/22)



おとめ座
(8/23~9/23)



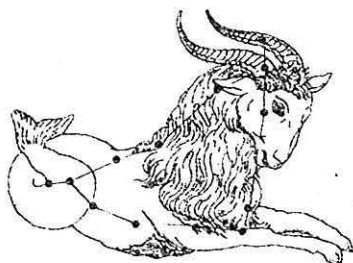
てんびん座
(9/24~10/23)



さそり座
(10/24~11/22)



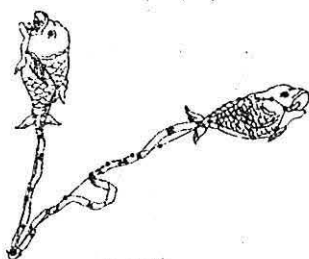
いて座
(11/23~12/21)



やぎ座
(12/22~1/20)



みずがめ座
(1/21~2/18)



うお座
(2/19~3/20)

黄道12星座は星座の中でも特に歴史が古く4000年以上昔、メソポタミア(今のイラクあたり)の羊飼いたちによって作られたと考えられています。

さて、この星座と生まれた日の関係をお話しましょう。一番初めの星座は3月21日から始まっています。3月21日というのは春分の日です(年によって多少変わります)。1月1日から始まればいいと思われるかもしれませんが、この春分の日というのは天文学での大事な目印である春分点を太陽が通る日で、太陽が1年のスタートラインにたった日を表します。この春分の日には太陽がある星座がおひつじ座でした。星占いの星座では、そこから、約1ヶ月ごとに星座をわりふっています。ですから、おおよそ生まれた日に太陽がいる星座を表しています。そのため、生まれた日の星座をその時に見ようとして徹夜をしても、見えないということになります。現在では、星占いがうまれたギリシャ時代から2000年ほどたっていて、本当に太陽がある星座と生まれ月の星座は1星座分ずれてしまっています。

大昔の人が想い描いた星座、そんな昔に思いをはせて、黄道12星座を見ても面白いのではないでしょうか。(布村 克志)



富山市科学文化センター

〒939 富山市西中野町1丁目8番31号
電話 (0764) 91-2123 (代表)

平成2年 9月15日発行